

令和2年度 福寿荘事業報告

1. 概要

知的障がい者を受入れ、安全で健康かつ安定した生活を保障する中で、一人ひとりの特性やニーズを的確に把握し、個別の支援計画に基づき適切な支援・援助を行った。また、社会生活(地域生活)に必要な知識技能、態度の習得に努め、豊かな人間性を養い、成長向上をはかり、社会的自立をめざした。

なお、年度当初から新型コロナウイルス感染症感染防止に取り組み、手指の手洗い、アルコール消毒に努め、また食堂利用や活動にあたっては「3密」を回避し実施した。なお、感染者が発生した事態を想定し、感染発生時における事業を継続するため「感染時における事業継続計画」を策定し対応に備えた。

2. 施設運営

(1) 職員構成(令和3年3月31日現在) (外数)…非常勤職員

荘長	サビ管	事務員	支援員	看護師	栄養士	嘱託医	計
1	1	2 兼務2	12 兼務2 (3)	1	1	(1)	18 (4)

(2) 施設修繕等

福寿荘建物及び設備の老朽化に伴い、修繕等を実施した。また、新型コロナウイルス感染防止対策として静養室1か所に、静養室内の空気が建物内に流れないように部屋の気圧を下げるための「簡易陰圧設備」を設置した(名古屋市補助事業)。

(3) 会議

会議名	内 容	実施日	構 成
運営会議	・施設運営全般について連絡・協議、 ・年間計画、方針の調整 ・体制全般に関する連絡調整、問題解決	随 時	荘長、課長
全体会議	業務及び支援全般に関わる検討協議	毎月1回 第3木曜日	全職員
療育会議	・各班の連絡調整 ・療育内容の相互確認・検討・進展 ・入所者の福祉向上と人権擁護の促進	毎月1回 (夜間)	支援課長、療育係長、 医務係長、各班チーフ、 GH世話人及びサビ管

虐待防止委員会	職員相互の資質の向上と各班間の意識調整及び協力体制の進展 ・職員の資質向上に向けてのリーダーシップの育成及び協力体制の構築 ・利用者の人権を擁護することを検討	2回	荘長 管理課長 支援課長 各班
班会議	・療育内容、個別方針の検討・作成 ・入所者の環境整備と処遇向上の進展 ・職員相互の資質の向上と職員間の意識調整及び協力体制の進展 ・ケース会議(個別支援計画関係)	毎月1回 (夜間)	各班担当職員
給食会議	入所者の給食に関する必要事項の検討・協議	3ヶ月に1回	給食係長、管理課長 利用者、療育係長、 医務係長
行事会議	行事の企画・立案	随時	各行事担当

(4) 職員研修

月	研修内容	主催	開催地	職種	人数
6	名古屋市障害福祉職員研修 社会人としてのマナー研修	名古屋市社会福祉協議会	名古屋市 医師会館	支援員	1
10.	新任職員基礎研修	名古屋市社会福祉協議会	名古屋市 総合社会 福祉会館	支援員	1
	令和2年度初任者研修	一般社団法人 愛知県知的障害者 福祉協会	オンライ ン	支援員	1
	令和2年度保健衛生研修	名古屋市	名古屋市 生涯学習 センター	看護師	1
11	令和2年度名古屋市強度行動障害者 支援者養成研修会(基礎研修)	名古屋市	御器所 ステーシ ョンビル	サビ管	1
12	精神障害研修	名古屋市	名古屋市 医師会館	支援員	1
1	強度行動障害者支援者養成研修 (実践研修)	社会福祉法人 よつ葉の会	よつ葉	サビ管	1
2	サービス管理責任者更新研修	名古屋市	オンライ ン	サビ管	1

(5) 職員勤務体制

就業規則第18条第1項にかかる勤務時間

職 種		始 業	終 業	休 憩 時 間
事務員 等		9:00	17:15	12:45～13:30
支援員 及び 作業指 導員	日勤1	9:00	17:15	12:45～13:30
	日勤2	11:15	19:30	17:15～18:00
	早 番	7:30	15:45	12:45～13:30
	遅 番	13:00	21:15	18:00～18:45
	夜 勤	13:00	翌9:15	深夜うち5時間15分

3. 利用者状況

(1) 入退所〈生活介護 定員50名〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
在籍	42	42	41	42	42	42	41	41	41	41	41	41

〈施設入所支援 定員40名〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
在籍	40	40	39	39	39	39	38	38	38	38	38	38

(2) 入所期間別(生活介護 41人(内、3人は通所者))

令和3年3月31日現在

	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～7年未満	7～10年未満	10年以上
男	1	0	0	1	1	18
女	1	2	0	2	1	14
合 計	0	3	1	1	0	34

平均・・・17.4年 最高期間・・・34年

(3) 年齢別(生活介護 41人(内、3人は通所者))

令和3年3月31日現在

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	合 計	平 均
男	1	0	0	5	8	7 (1)	0	21	47.7
女	1	2	0	5	6	4 (1)	2 (1)	20	60.4
合計	2	2	0	10	14	11	2	41 (3)	54.1

最高年齢…73 歳(女性) 最少年齢…20 歳(男女各1名)

(4)障がい別(生活介護 41人(内、3人は通所者))

令和3年 3月 31日現在

障がい名	知的障がい	てんかん	ダウン症候群	自閉症	精神障がい			
					統合失調症	心因性妄想	適応障がい	てんかん性精神不安
男	21	9	1	6	2	0	1	0
女	20	7	2	1	1	1	1	1
合計	41	16	2	7	3	1	2	1

障がい名	身体機能障がい				
	聴力障がい	言語障がい	嚥下機能障がい	体幹機能障がい	視力障がい
男	0	7	1	2	2
女	2	2	1	1	1
合計	2	9	2	3	3

(4)障害程度区分(生活介護 41人(内、3人は通所者))

令和3年 3月 31日現在

区分	「3」	「4」	「5」	「6」
男	0人	5	11	5
女	1人	5	10	4

4. 支援内容

<1 班>利用者 13名

重度知的障害・行動障害の利用者を中心とし、今年度は活動場所を木工棟に変更し活動を行う。

今年度重点的に行ったことは利用者の自立課題の見直しとスケジュールなどの視覚支援の充実、個別空間の充実を図った。自立課題では、個々に合わせ提供することができ、前期と後期と大きく2回入れ替えを行う。また、視覚的に伝えることを意識し予定表などを全て絵や写真などに変更し利用者が理解できる形に変更している。また、個別でもスケジュールや余暇ボードなど個々に合わせた視覚支援を提供し生活環境を整えている。活動空間についても課題に集中できるよう構造化を図りながら、個別でリラックスできるよう椅子を配置したり、テントを設置するなどしてそれぞれに合わせ集中する空間と落ち着ける空間の提供を行う。余暇活動では、散歩やDVD鑑賞、ドライブやドライブスルー、テイクアウトなどを活用したおやつ購入などコロナ禍でも利用者が楽しめる余暇活動を提供している。

<2 班>利用者 8名

高齢の利用者からなる班であり、体力維持のため、リハビリ指導の先生による運動やマッサージ、個々の身体状況に合わせた個別のリハビリ訓練を行った。その他、日光浴や日常の生活動作を取り入れた生活リハビリ、嚥下体操を曜日毎に行った。余暇活動として

は、レクリエーションやティータイム、ドライブや、ドライブスルーを利用したりするなどして日々の生活の張り合いになるよう取り組んだ。整容(爪切り、耳かき、足浴)は、毎月定期的に行い、身体確認と衛生保持に努めた。健康面では、秋や冬の時期に、ヤクルトを購入し班稼働の合間に飲み免疫力強化に努めた。移行では、高齢者施設へ1名移行した。利用者の体調面では、誤嚥性肺炎により入院し逝去された方が1名、てんかん発作のため入院が1名、慢性偽性腸閉塞のため入院が1名、腰椎圧迫骨折・右人工関節挿入で入院が1名であった。また、長期入院による体力低下がみられ、転倒などによる怪我防止のためリハビリ病院に2名入院した。退院後は、生活環境の見直しをし、安全な生活が行えるよう居室場所の変更、ユニバーサルデザインの食器にするなど、現在の身体状況に合わせ対応を行った。

現状、体力機能・嚥下機能の低下などの課題があり、個々の身体状況に合わせた体力づくりや、身体・健康状況の変化に気づき、適切に対応していくことが必要になっている。今後、医務や栄養士、リハビリ指導の先生など、他職間と連携をとり高齢化対策を行なっていきながら、精神面のケアを図り、いきがいや生活に張り合いがもてるよう支援していく。

<3 班>利用者20名

精神面・健康面で不安定な利用者が多く、個々の特性に合わせた支援を考え取り組んだがひとりひとりの精神面での安定という点においては行き届かなかった部分があった。外注作業に取り組み作業に対する責任感ややりがいを感じてもらい作業物品や方法等工夫し環境を整え取り組んでもらった。また、施設内、周辺の清掃活動を行い環境整備を行なった。日々の生活の中で役割分担を決め利用者個々に合った役割を担い日々の生活を自らの行動で取り組んでもらう機会を作った。役割を理解し他者と関わりを持つことで班員の一人であること他者を意識した生活を送ってもらった。体力作りのための散歩は、個々のペースや体力に合わせて距離や時間を分け無理なく継続して行えるよう配慮し体力維持に努めた。必要な方には、リハビリ指導の先生によるマッサージや運動の機会を作った。毎月、弁当購入を行いさまざまな選択肢の中から選んでもらう機会を提供するとともに日々の生活の楽しみとなるよう取り組んだ。

5. 文化・余暇活動

利用者一人ひとりが自分の趣味趣向を有意義に発揮できる場を提供し、自己表現できるように支援した。また、サークル活動や自治会活動を取り入れ、本人にとって楽しく生甲斐となるよう自分の発想で展開していける力を発揮できるように支援した。

(1) 荘生自治会

<総 会>…役員会で議題を提示し毎月1回の全体総会で討議した。利用者から出された意見に対し、優先順位をつけ生活の中に反映させた。

<誕生会>…利用者全員及び職員で誕生者を祝う会として毎月1回実施した。

<奉仕活動>…毎月1回、自主的活動として、施設内の環境整備を行なった。

<自治会喫茶>…新型コロナウイルスの感染防止のため利用者主催の飲食の活動は自粛した。

<その他>…役員は、利用者代表として責任を持ち施設生活を送る上で役割を分担して

行なった。

(2) サークル活動

利用者からの希望をもとに、ドライブ、カラオケ、映画・ビデオの3種類のサークル活動を年4回行なった。趣味的活動、余暇的活動などを通じて、利用者が施設生活に楽しみと張りを持てる場を提供すると共に、余暇時間の充実を図った。

(3) その他

利用者からの要望に対し適時必要な支援を行なった。

6. 行 事

・2年度行事は新型コロナウイルス感染症感染防止のため、利用者のみ参加する行事をした。

〈大行事〉

実施日	内 容	実 施 状 況
7月31日(金)	夏祭り	福寿荘講堂・食堂にて実施。屋台やゲームなど催しものを行い、スクリーンで花火の映像を流すなどコロナ禍でも夏の夜の風物詩を楽しめる内容を企画し開催した。
10月9日(金)	運動会	福寿荘グラウンド・講堂で実施し。徒競走やパン食い競争を行い、利用者が体を動かしながら楽しんでもらえる機会とした。
11月5日(木)	秋のビデオ上映会	例年、遠足を行っていたが、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、外出が難しくなった為、食事会を開催し、弁当を食べ、これまでの遠足の写真をスライドショーにして振り返る機会とした。
12月11日(金)	クリスマス会	利用者は正装し、職員はサンタに扮して、パーティー食を食べながら、一年間の思い出を振り返るスライドショーや、皆で踊れる「パプリカ」のダンスを踊った。荘生は講堂の装飾品を作ったり、GH 生は今年流行した「鬼滅の刃」の衣装を着て映像作品を作るなど利用者も準備に参加しながら、皆でクリスマス会を盛り上げる内容となった。

〈小行事〉

実施日	内 容	実 施 状 況
4月	花 見	昼食やおやつを楽しみながら実施。
7月	七 夕	短冊に願い事を書いて笹へ飾った。

9月2日(月)	炊き出し訓練	災害時の避難所を想定し、講堂にて皆で非常食を体験した。
12月26日(木)	もちつき会	新年を迎える会とし、各班にて年賀状書きを行いその後餅「ふく(福)」を食べた。
2月6日(木)	豆まき会	各居住棟にて豆に見立てたボールをまき実施した。
3月31日(火)	慰労会	頑張った利用者の方を表彰した。食堂・講堂に分かれ美味しい食事をとり、一年の労を労った。

7. 地域交流及びボランティア・実習生の受け入れ

新型コロナウイルスの感染防止の為、地域との交流は自粛した。また、行事縮小のためボランティアの受け入れは行わなかった。

8. 給食

調理業務については、委託業者との連絡・調整に努め、利用者の嗜好等を考慮し適正な栄養の確保と共に盛り付けや味付け等、十分に配慮した。また、食品衛生にも細心の注意を払った。

なお、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、食堂利用時の人数を半数とするなどの対策をとり、密な状態を解消した。

(1) わくわくランチ(毎月1回)、選択メニュー(毎月1回以上)

給食の弊害である「与えられる」という食事意識を少しでも解消する為、バイキング方式などのメニューを積極的に取り入れた。それにより自らの選んだものを食べるという自己決定の機会を増やすと共にマナーの練習を行ない、継続して「楽しい食事」を提供できた。

(2) 治療食

肥満食、刻み食に加え、疾病の状況に応じた献立を取り入れ健康面の配慮を行なった。

(3) 栄養指標

① 栄養摂取目標値

エネルギー	タンパク質	脂肪	Ca	Fe	VA	VB1	VB2	VC
1950 kcal	60 g	49 g	660 mg	9 mg	780 μg	1.1 mg	1.2 mg	110 mg

② 栄養摂取状況

	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	糖質 (g)	Ca (mg)	Fe(mg)	ビタミン			
							VA (μg)	VB1 (mg)	VB2 (mg)	VC (mg)
4月	1979	73.8	53.9	282.0	744	13.8	719	2.31	1.27	122
5月	1902	71.5	49.2	276.9	681	13.3	675	2.26	1.22	112
6月	1913	73.2	51.4	271.3	698	13.6	640	2.34	1.23	112

7月	1927	74.0	49.8	278.5	713	13.2	674	2.33	1.20	109
8月	1889	72.4	49.7	271.9	706	12.9	697	2.21	1.23	111
9月	1980	73.8	54.0	282.4	702	13.5	648	2.34	1.23	112
10月	1929	73.6	51.8	275.0	713	13.8	685	2.33	1.24	110
11月	1949	73.9	52.3	278.5	731	13.5	705	2.25	1.26	116
12月	1941	75.3	52.2	275.9	711	13.4	669	2.24	1.27	111
1月	1953	75.0	52.5	277.9	714	13.6	642	2.18	1.24	112
2月	1975	74.8	52.1	284.8	728	13.9	681	2.45	1.23	115
3月	1907	73.9	51.1	271.3	739	13.9	652	2.31	1.24	113
平均	1937	73.8	51.7	277.2	715	13.5	674	2.30	1.24	113

③ 食品群別摂取目標

穀類	いも類	砂糖	油脂	豆類	魚介類	肉類
305	50	13	17	65	65	55
卵類	乳類	緑黄色野菜	果実類	淡色野菜	海藻	
40	200	120	100	230	6	

④ 栄養摂取状況

	穀類 (g)	芋類 (g)	砂糖 (g)	油脂 (g)	豆類 (g)	魚介 類(g)	肉類 (g)	卵類 (g)	乳類 (g)	緑黄 色野 菜(g)	淡色 野菜 (g)	果実 類(g)	海藻 (g)
4月	308.0	48.2	9.3	20.0	70.2	73.3	71.2	28.9	140.2	156.8	202.0	52.9	6.1
5月	297.2	45.3	8.5	16.9	57.0	72.1	67.4	37.1	128.6	136.0	226.8	66.3	7.0
6月	287.7	54.8	8.3	18.9	62.2	80.7	74.8	32.3	124.4	133.1	213.3	52.6	5.0
7月	311.1	39.3	7.1	17.8	60.0	86.2	65.3	27.6	122.3	137.3	225.0	66.7	4.3
8月	299.9	43.0	8.1	16.0	66.4	72.1	76.7	22.0	134.3	153.2	194.3	60.8	6.3
9月	304.6	51.3	9.0	20.7	62.6	80.3	71.1	32.0	129.5	126.2	203.5	70.1	4.5
10月	298.5	48.4	7.3	18.9	62.3	77.9	70.5	32.8	130.6	127.6	219.9	53.0	5.4
11月	310.4	43.2	8.4	17.9	57.2	76.7	69.9	34.3	127.1	138.9	214.7	63.6	3.2
12月	305.0	42.0	8.8	16.7	63.3	88.0	69.7	35.3	140.2	133.3	200.9	63.6	4.6
1月	315.9	32.4	8.0	18.6	63.1	84.9	63.6	30.0	125.1	135.3	210.1	64.9	3.7
2月	295.6	56.9	10.1	18.2	82.1	73.2	81.7	28.6	132.4	132.2	222.6	56.4	7.0
3月	304.2	46.9	8.0	17.2	76.0	79.9	68.8	29.0	137.5	128.3	214.1	56.8	6.0
平均	303.2	46.0	8.4	18.2	65.2	78.8	70.9	30.8	131.0	136.5	212.3	60.6	5.3

9. 保健衛生管理

(1) 年間検診等実施状況

月	検診等内容	利用者	職員
6	耳鼻科検診	入所者3名(定期通院者のみ)	
6	歯科検診	入所者40名	
	救命講習		13名
10月	定期健康診断	入所者37名 通所者2名	26名
11月	インフルエンザ予防接種	入所者39名	任意
R3.2月	定期健康診断	入所者39名	16名
毎月第4木曜日 嘱託医回診			

(2) 月別通院状況

通院先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
歯科	42	42	41	51	34	39	34	9	28	9	0	10	339
眼科	0	2	2	2	5	6	0	1	1	1	0	0	20
耳鼻科	4	1	3	0	2	3	3	0	0	0	0	1	17
整形外科	18	13	17	7	14	8	2	3	5	5	6	0	98
外科	2	2	4	9	5	6	4	7	0	0	0	0	39
精神科	6	1	6	7	11	9	0	3	0	0	7	0	50
内科	41	19	31	40	21	21	70	56	5	5	16	17	342
泌尿器科	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
皮膚科	2	2	9	5	6	9	3	0	0	0	1	0	37
婦人科	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0	1	0	6
合計	118	82	113	121	98	101	119	81	39	20	31	28	951

(3) 年間入院状況

年齢	性別	病名	入院先	入院期間
72	男	低血糖精査	名古屋記念病院	4/25 ~ 6/1
62	男	誤嚥性肺炎	名古屋記念病院	4/30 ~ 6/5死亡
73	女	キライディティ症候群	藤田医科大学病院	7/27 ~ 8/4
66	男	重責発作	名古屋市立大学病院	8/9 ~ 8/14
66	男	誤嚥性肺炎	名古屋市立大学病院	10/25 ~ 11/19
66	男	リハビリ	並木病院	11/20 ~ 1/27
65	男	右大腿骨骨頭内側骨折	藤田医科大学病院	1/25~2/26

65	男	リハビリ	東名古屋病院	3/26～入院中
73	女	慢性偽性腸閉塞	藤田医科大学病院	1/14～3/30
73	女	慢性偽性腸閉塞	服部病院	3/30～入院中

10. 短期入所事業・日中一時受入事業

居宅において介護を行う者の疾病その他の理由により、宿泊による短期入所を必要とする障害者の方の支援を行った。また、日帰りの支援を希望する障害者の方については、日中一時事業により受け入れを行った。短期入所事業、日中一時受入事業合わせての定員が4名で利用率は 37.8%であった。

(短期入所事業利用実績)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	4	3	3	3	2	3	4	3	3	4	4	4	40
	43	39	41	38	33	39	47	45	43	40	42	44	494
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	3	3	3	2	3	4	3	3	4	4	4	40
	43	39	41	38	33	39	47	45	43	40	42	44	494

(上段:実人数、下段:利用日数)

(日中一時受入事業利用実績)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	15
	3	6	4	5	6	5	4	6	6	5	4	4	58
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	15
	3	6	4	5	6	5	4	6	6	5	4	4	58

(上段:実人数、下段:利用日数)

11. 地域生活支援活動 (グループホーム・自立生活者)

年間を通じ、新型コロナウイルス感染症感染防止に留意し、病気による静養、通院等、緊急対応を行ない、地域生活者の心身の健康維持に努めた。

12. 防火・防災管理

火災・地震等の災害対策については、入所者の安全を最優先とし、特に大規模災害を想定した防災体制の強化を計った。更に、各職員の責任分担を明確にした上、年間計画に基づく各種場面(日中及び夜間)を想定した防災訓練を行なった。

< 防災訓練実施状況 >

月	訓練教育等種別	実施内容
5	職員 防災教育	防災設備・機器の取扱いや、防火・防災計画の説明及び指導
6	消防用設備点検	16日 総合点検
6	通報・連絡 地震発生想定避難訓練	27日 地震想定 消防組織表に基づき実施
9	地震発生想定避難訓練 避難 炊き出し訓練	1日 大規模地震が発生したとの想定
	健康福祉局防災訓練	4日 大規模地震が発生したとの想定で実施。
11	消防用設備点検	4日 機器点検
12	通報・連絡 初期消火・避難訓練	17日 火災想定で実施 消防組織表に基づき実施